

地域医療を考えるセミナーの開催について

八雲町議会

地域医療を考えるセミナーの開催について

10月18日(日)北海道市町村振興協会の助成を受け、八雲町議会の企画・運営により、地域医療を考えるセミナー(主催 八雲町・後援 八雲町議会)を開催した。

このセミナーは、地域医療の課題を解決する第一歩として町民、職員、議員はもとより、長万部町、今金町、せたな町、松前町の議会議員、町内外の医療従事者、医療従事者を目指す八雲高校生等、110名の参加を得て実施した。

このセミナーは、地域医療の現状や課題、守り育て続けるための取り組みなどについて、講演を通じ理解を深めるにとどまらず、グループ討議を行うことで、多様な参加者が自らの意見を出し合い、議論することによって、相互理解を深める一助となった。

八雲町議会としても、初めての取り組みであり議会改革を前進させることができたのではないかと感じている。

以下、今回のセミナーを総括する。

1. 地域医療を考えるセミナーの概要・日程

セミナーの概要及び日程は次のとおりである。

- | | |
|-----------|---|
| 1. 主 | 催：八雲町 |
| 2. 後 | 援：八雲町議会 |
| 3. 開催日時 | ：2015年10月18日(日) 午前10時から |
| 4. 開催場所 | ：はぴあ八雲(八雲町本町110-1) |
| 5. 対象・定員 | ：町民・職員・議員
第一部講演は定員なし、第二部グループ討議は定員40名程度 |
| 6. 支援金交付元 | ：北海道市町村振興協会 |

地域医療セミナー 予定表

10月17日（土）

時 間	予 定
7 : 0 0	伊関教授迎え八雲出発
9 : 1 5	伊関教授函館空港到着（J A L 5 8 5）
1 1 : 0 0	町長と講師の懇談終了後、役場議員控室にて議員と講師の懇談
1 1 : 2 5	八雲総合病院訪問（沢野課長対応）
1 2 : 2 5	昼食
1 4 : 0 0	熊石国保病院訪問（副町長・事務長対応）
1 5 : 4 0	道立江差病院見学（建物のみ）
1 6 : 3 0	はぴあ八雲会場準備
1 7 : 2 0	伊関教授ホテルチェックイン
1 8 : 0 0	伊関教授を囲んで懇親会

10月18日（日）

時 間	予 定
9 : 0 0	集合（会場準備）
9 : 2 0	受付開始
9 : 4 0	伊関教授ホテル迎え
1 0 : 0 0	セミナー開始
1 2 : 1 5	昼食
昼食終了後	グループ討議用に会場変更
1 3 : 3 0	グループ討議開始
1 4 : 3 0	グループ発表・講評
1 5 : 3 0	伊関教授送り八雲出発
1 9 : 3 0	伊関教授離道（J A L 5 8 8）

2. 今回のセミナーの特色

今回のセミナーについては、次のような特色を有するよう企画した。

- a) 第一部は伊関教授より、全国で医師不足が深刻な問題となっているのはどうしてか、急激に進む高齢化社会への対応と病院存続の危機、医師が勤務しようと思える地域と病院をどのように作るかなどの地域医療が抱えている課題解決のために、全国の具体的な事例に基づいて「地域医療～再生への処方箋」と題した講演をいただき、地域医療の現状と課題の習得に努めるようにした。
- b) 第二部は午前の講演内容をもとに、「地域の病院を残していくには」をテーマにグループ討議を行い、各グループから発表された結果について伊関教授より講評をいただいた。
- c) グループ討議は、町民・職員（行政・病院）・議員をひとつのテーブルとして、議員がリーダーとなり、それぞれの立場で自由に意見を出し合えるようにした。
- d) 伊関教授には、前日、八雲総合病院・熊石国保病院の施設見学ならびに病院職員と意見交換を行うことで、それぞれの病院の現状を把握いただいた。
- e) 伊関教授と議員との意見・情報交換の時間を確保するため、前日に懇談会を設定した。
- f) セミナーの実施にあたっては、企画振興課にご協力をいただき主催は八雲町とし、企画・運営を議員が行うという新たな取り組みを試みた。
- g) セミナー終了後には、今後の活動の参考とするため参加者を対象としたアンケート調査を実施し、文末のとおりまとめた。

3. 募集と応募状況・受講者

参加者の募集に当っては、町広報紙にチラシを折込み全戸配布したほか、公共・民間施設にポスターを掲示、八雲町ウェブサイトでの案内、北海道新聞への情報及び資料提供、また、二次医療圏の議会並びに病院職員へも、積極的に参加協力をお願いした。

募集定員は、第一部は定員なしとし、第二部のグループ討議は40名程度とした。二次医療圏以外の議会議員や医師、医療機関の従事者、また、将来医療従事を目指す高校生の参加もいただき、予想を超える第一部110名（町民51名、行政職員25名、議員12名、その他22名）、第二部49名（町民28名、行政職員10名、議員11名）の参加に達した。

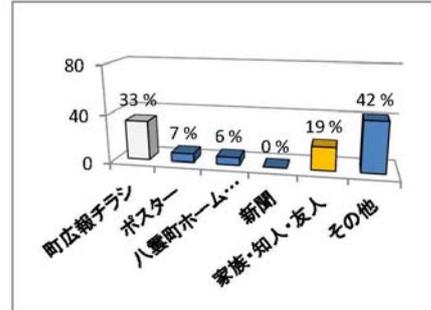
※アンケート結果

①セミナーをどのようにして知りましたか

Q3 セミナーをどのようにして知りましたか

【複数回答】

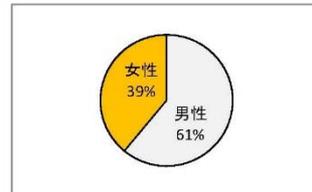
	人数	割合
① 町広報チラシ	22人	33%
② ポスター	5人	7%
③ 八雲町ホームページ	4人	6%
④ 新聞	人	%
⑤ 家族・知人・友人	13人	19%
⑥ その他	28人	42%
無回答	2人	3%
回答者数	67人	



②セミナー参加者の構成

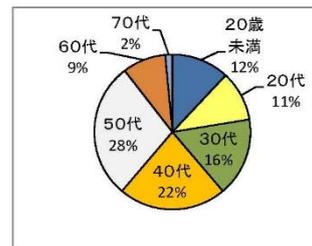
Q1 性別について

	人数	割合
① 男性	41人	61%
② 女性	26人	39%
無回答	人	%
回答者数	67人	



Q2 年齢について

	人数	割合
① 20歳未満	8人	12%
② 20代	7人	10%
③ 30代	11人	16%
④ 40代	15人	22%
⑤ 50代	19人	28%
⑥ 60代	6人	9%
⑦ 70代	1人	1%
⑧ 80歳以上	人	%
無回答	人	%
回答者数	67人	



4-1. セミナーの内容 第一部 講演「地域医療～再生への処方箋」

城西大学伊関友伸教授より「地域医療～再生への処方箋」と題し、2時間にわたる講演が行われ、現在、地域医療に起きていることや、その問題を解決するため必要なことについてお話をいただいた。

『医師不足問題』については、国の医師抑制政策や医療の高度専門化、新臨床研修制度による医局制度の崩壊により、若い医師の多くは都会の大病院を選ぶこととなり、病院の2極化が起きている。地方の病院は少ない医師で多くの仕事をこなさなければならないことから、医師の労働環境は劣悪な状態となっている。

病院の提供する医療サービスも性格が変わり、現在の診療報酬は技術に対して適切に配分することを目指しているため、八雲総合病院の感染防止対策加算1取得を事例に、加算をとるため職員が研修していることを評価。それ以外の分野でも加算取得に必要な研修に参加し、チームを作り、医療の質を上げ収入を上げることが、今の病院経営に求められていることが理解できた。

『どのようにして、医師が勤務したくなる地域にしていくか』では、今後、急激な高齢化を迎えることにより地域に急性期病院が必要になり、また、若者の雇用先となる優良産業という視点からも病院を支援する必要性がある。では、どうしたら、医師が勤務したくなる地域になるかという、過剰な要求をしない、過酷な勤務を強いない、学べる環境をつくる、住民が感謝の気持ちを持つ等々が挙げられたが、これらは地域自らが医師を育てていくことにもつながって行くことが併せて話された。

地域が医師を育てる体制を築いているところには研修医が集まり、自ずと常勤医も集まるという事例等が紹介され、初期研修プログラムのマッチングでは、八雲総合病院は3名枠に対し、2名の希望があり研修病院としての力と可能性を示唆、病院全体の研修力を上げていくことを応援する必要性も述べられた。

『医療再生における共感の重要性』では、医療は、人が人に行うサービスであり、すべての関係者が前向きに行動することで、制度と制度の間に出来る隙間を埋め、良い医療の実現に結びつく。住民の行動が地域の共感を広め、地域医療を再生した例を紹介し説明された。

『地域医療の再生は民主主義の再生へつながる』の中では、自分たちの健康に関することゆえに、きちんとした病院側の情報提供と住民の間の議論があれば、人々は節度ある行動をとり、地域の民主主義の再生にもつながる。

行政と医療者と住民が、それぞれ当事者であることを意識し、共同で作業をしていかなければいけない。そのためには行政・議会・住民のつながりと頑張りが必要となり、そういう地域でなければ、病院を維持し生き残れない時代となっていると結ばれた。

4-2. グループ討議 第二部 5グループ別による討議及び全体討議

午後からは、「地域の病院を残していくためには」をテーマに、グループごとに議論した結果を模造紙にまとめ、それぞれ発表をした後、伊関教授より講評をいただいた。

各グループの主な討議内容と伊関教授の講評は次のとおりである。

【Aグループ】

講演のキーワードを「共感」として話を進めていくこととした。

「共感を持つために我々は行動しなければいけない」ということで、一般町民から出された「何から始めたらいいいんだろうか」という意見をきっかけに話を始めた。

- ・「病院の再生」に「住民の理解」が大事なのは間違いないが、住民は現状をどこまで理解しているだろうか？
- ・医師や医療スタッフの顔が見えない ⇒ 病院からの情報発信が少ない。
- ・病院内の職員同士のコミュニケーションも不足していないか？
- ・医師と住民、医師と患者さんのどちらにもコミュニケーションが不足している。
- ・これまで、職員も患者さんの話を十分に聞いているだろうか？

- ・ 接遇✕ ⇒ 不安✕ 接遇が悪いと患者さんが不安になり、患者数が減る。それが
 ↑ ↓ 職員減につながり、多忙が更なる接遇の悪さにつながる。
 職員減 ← 患者減
- ・ 接遇を良くするためには医師、医療スタッフの研修と人員の増が必要。

○地道な行程をやっつけていかなきゃ！？ 何から始める？

住民、病院関係者、議会・行政関係者 それぞれが当事者意識を持ち、優しい目で見ると、信頼関係を作る。

信じあえるきっかけを作るには、他人に期待ばかり大きくなってダメ。

他人は変わらない、変えるのは大変！なので、自分を変えろ！と、言う様な意見が出されました。

〔他に出された意見〕

- ・ 先生は大変な中頑張っているのに、文句ばかり言われたら嫌だと思う。お医者さんを大切にしようという気持ちを我々も忘れていた。
- ・ 地方の病院としては良い医療を提供しているのに、失敗ばかりを言ってしまう。
- ・ 診断に疑問があるなら紹介状を書くから、違う病院に行って聞いておいでと、そして、同じ診断だったらここでも治療できるから、また戻ってきてもいいよというような先生が居れば良いと思う。
- ・ 信じあえれば、最初違って、じゃあこう言う治療やってみるかとか、この薬に変えてみるかなと言っても、そうかいつてなるけど、信じていなければこのやろうと思ってしまう。
- ・ 良い医療が出来るように休みもとれるし、研修も受けれるようになってるんだといたら、やっぱりうれしいと思う。今のままだとやる気が無くなるような方向になってきてしまう。
- ・ 良くないわさが流れている中で、先生たちの顔が見えないと、いざどこかが悪くなった時に総合病院が選択肢に上がらない。
- ・ 先生はいろいろな事情で移動するが、病院の雰囲気良くて、あそこは良いよとなれば、次の先生が、少しでも長くいようかなと思うかもしれない。
- ・ 自分たちが何をやっているのかを知らせることも大事。どの科でどんな治療ができるのか（治療実績等）。
- ・ どうして待ち時間が長いのか等、説明しないと患者はなぜかわからない。
- ・ 医者はいろいろなところから来るが、患者は我々八雲町民。だから八雲町民はこうなんだよという雰囲気を作らなければいけない。

【Bグループ】

Bグループでは、議員2名、病院職員3名、一般2名、行政職1名の合計8名で討議を行った。

いきなり、テーマである「地域の病院を残していくためには」の答えを出していくことは、ハードルが高いと感じたため、まずは病院に対する問題点や課題をランダムに出し合い、その後それらの問題に対しての対応策や改善策を検討する方法を採った。

また、問題点や課題を挙げていくと、「医師や看護師、技師など人材に関すること」、「接遇などサービスに関すること」、「経営に関すること」「医療を受ける住民側としての意識に関すること」の大きく4つの項目に分けることができた。

1. 人材に関すること

常勤医が足りないことがコスト増になっている。(出張医の増加)

医師や看護師の過酷労働。

日常業務に追われ研修等を受講できず、スキルアップできない。

看護師は奨学金の返済免除期間が過ぎると退職してしまう。

【対 策】

研修医の積極的受け入れ。(3名から増枠)

看護師の地元住民との婚活。

研修の充実。

2. サービスに関すること

医師と患者とのコミュニケーション不足。

看護師の接遇が良くない。

夜警の対応が良くない。

【対 策】

接遇研修等で他の部署や他の病院を見る。

委託業者へ改善を依頼する。

3. 経営に関すること

院長は医師であって、経営のプロではない。

地域の病院同士の連携が足りない。

住民に対して情報発信が足りない。

【対 策】

院長と設置者の責任の明確化。

域内病院間の連携を強化する。

広報専門職員の配置。

4. 住民意識に関すること

病院の敷居が高いと感じる。

医療スタッフや住民に、病院が無くなった時の危機意識がない。

【対 策】

住民側から病院応援隊(支援団体)の創設。

今回のような、病院職員と住民・議会が話し合える場を定期的に設ける。

〔他に出された意見〕

- ・検査室は50代の技師が7・8人いるので、若い人の補充が心配。
- ・リハビリは入院の患者のほか外来の患者もいる。なかなか外来の患者を診ていても終了にならなくて、上乗せ上乗せで増えていっている。1日の中で患者だけが増えていくと、1人当たりの時間が短くなり、治療の質が落ちてしまう。
- ・普段から人と人との繋がりがあって、町民との信頼関係が持てなければ、地域が何とかしてあげようとはならないのでは。
- ・医師の診察も患者が安心して帰れるような診察の仕方をしていく必要があるのでは。
- ・見立てが多少良くなくても、入った時の病棟スタッフの対応が良いとそれだけで違ってくる。
- ・就職するにあたって、八雲には総合病院があるというのをもう少しアピールしたほうが人が来やすいのでは。

【Cグループ】

総合病院をどうする？との内容に偏ってしまった。

現状で問題になっているのは、人材の確保・育成。PR不足。いかに住民と協働して信頼回復に結び付けるかという事。

1. 人材の確保、育成の必要性

○チーム医療がまだまだ発展途上

スタッフから医師に発言できる体制が良い病院につながる。

プロ意識が必要だ。

○研修医が来てもらえる病院に

教育できる医師が必要。

松前病院と連携や交流を。

スタッフ不足を感じている。人員を増やして医療の充実を。

2. 情報発信が足りない

人材確保、財源確保のためにもPRが大事。

良い情報をもっと発信すべき。

3. 住民と協働での信頼回復が必要

病院への悪口が広がっている。風評被害がひろがる。(物は一流でも人は三流だ)

風評に対して「そんなことないよ」と住民が言えるように。

Cグループは他グループと同じように問題点を感じつつも、他の病院や市町村との比較が出なかった。

病院を「こうすべき」、「こうあるべき」という結果へ導けなかった。

〔他に出された意見〕

- ・町民や近隣町村の人から総合病院良い所だなど、信頼されるためにはどういふふう情報発信をしていったらよいかを皆で考えていかなければならない。
- ・病院と住民が協働して、一丸となって取り組んでいかなければ、病院だけでやったとしても、一般の人は協力してくれない。
- ・広報だけじゃなく、もっとPRできる方法を考えて欲しい。今まで町外に流れていた人たちに、八雲でもできるんだというのをPRして戻ってきてもらう。
- ・若い先生がついていきたいというような先生を探して、教えてもらう事が大切。
- ・すべての事において、検証が必要。

【Dグループ】

Dグループの討議は薬剤師の方の「人手不足だ」という一言から始まりました。

「薬剤師だったら、あと何人必要なんですか。」と問うと、「あと10人はほしいね。」との答えにびっくりしました。いま現在の7人では全然足りないことになります。特に薬剤師は大学が6年間あるので、ふつうの大学4年間で500～600万円で済むところ、1,500～1,600万円かかるというのです。親の負担は半端では済みません。しかも、国家試験に一発で受かる人は少ないとの話を聞き、補充もしづらい職種なのがわかりました。

議会で、病院改革のひとつとして薬剤師に奨学金を出してはどうかと提案していることを伝えると、ぜひ実現させてほしいとの反応がかえってきました。

○「人が足りない」ことは、医師、看護師、医療スタッフ、すべてに共通することです。

- ・みんな、日々の業務に追われている。
- ・医師も追いつめられていて、過労死や自殺に追い込まれる人もいる。考えようによっては医師も被害者ではないか。
- ・看護師がやめる理由は「時間がない」「教育がない」「スキルアップが得られない」から。
- ・都会志向で田舎には来ない。

等々の現状が語られました。

★ではどうするか。

- ・学生のときから支援して、八雲に戻ってこれる仕組みが必要。
- ・町からの助成が必要。

という案がでました。

○次に大きなテーマとなったのは、「総合病院は地元になきゃダメだ」というものです。

- ・地方でこれだけ、人、モノがそろっている病院は珍しい。
- ・他に全然ひけをとってない！

△それなのに何故？患者が集まらないのか。

- ・他と比較ができないからではないか。
- ・悪いイメージが先行してしまう。
- ・誤診があった時のフォローする体制が出来ていない。

△しかし、それが医者に伝わっているだろうか？

- ・病院と八雲町民のコミュニケーションができてない。
- ・両方が一方通行になっている。

などの意見が出されました。

★では、どうしたらいいだろうか。悪いイメージを払しょくするためには、良いイメージの方を皆でもっと話してもらえたら。

- ・すごく親切で優しい。
- ・接遇は確実に改善されているのでは。
- ・リハビリの方からは地元の良さとして、顔見知りになり、会話がしやすく、リハビリの指導がしやすい。
- ・医療スタッフは自分の病院に誇りを持っているという事が感じられた。
- ・やりがいのある職場。

などが出され、自分達のやってることがスゴイと思えれば忙しくてもいいんだというつぶやきもありました。

これらのことを聞き、高校生が「町民こそ意識を変えよう！」「病院を家族のように見守ろう」「病院のいいところを口コミもいいけど広報でもっと広げよう」と、大変前向きな発言をしてくれました。発信が足りない。発信が大切、SNSの活用も視野に入れていこうというのが結論になったように思います。

〔他に出された意見〕

- ・若い医師は目標を持ってやっている医師が多いが、業務に追われ、やりたいことをうまくできない、大学で習ったことをそのままできないことも多い。
- ・八雲自体に看護学校があると、総合病院に来やすいのでは。子どもたちや将来のことを考えてもあったほうがいい。
- ・1個1個の診療内容だけを見れば、決して都会の病院に負けていない。リハビリの質は、函館から見ても上であるという話もある。

【Eグループ】

なぜ、地域に病院が必要なのだろうか？それは「八雲町は、みんなが安心して暮らせる町」であってほしいから。では、みんなで安心して健康に暮らすために、必要なものは何か、そして自分は何ができるか？ということで、自由に意見を書きだし、同じ系統のものをグループ化し、整理を行いました。本当は、それを分析する作業まで行う予定でしたが、時間がなく、次回の課題となりました。

☆出された意見から抜粋

《雇用の確保》

- ・若者が働きやすく、住みたいと思う町⇒雇用の確保が大切。
- ・働きやすく、子育てしやすい町。若いお母さんも働きやすい環境を！

《医療機関の充実》

- ・体調が悪い時、気軽に相談できるサービス。親身に対応してくれる医療機関。
- ・患者として信頼できる医師の確保（自分の主治医の確保）。
- ・医師確保と医師養成のマッチング。残業がとりやすい環境。

《情報共有》

- ・情報共有の強化。
- ・ガバナンスをきちんとやってほしい。トップの考えを明確に伝える。
- ・病院の風通しを良くし、職員同士の情報共有。地域・患者の思いを聞く。

《教育》

- ・「勉強したい！」という思いを受け止め、共に取り組む仕組み。
- ・若い人に研修を！ 学費の支援。

《行政・町民の協働》

- ・みんなが参加するまちづくり（町民を巻き込む政策）。
- ・人と人が支え合える町（ボランティア精神の向上。『お互い様』の思い）。

《一人ひとりが認められる環境整備》

- ・住居・住まいのバリアフリー。高齢者に優しい町（足の確保⇒医療・買い物）。
- ・福祉サービスの充実。子どもが安心して遊べる環境整備。
- ・地域の見守り&心配り。相談できる場所（人）の確保。活躍できる場の確保。

<まとめ>

協働のまちづくり＝意見を聞く場はあるが聞きっぱなしが多い。行政・町民がしっかりと連携し、社会資源を活かす。

今日のような会合をこまめに行い、役割分担・協力体制をはっきりさせる。

本音・弱音が言える職場、地域づくりが大切。

[他に出席された意見]

- ・高校生以外で話し合う事が初めてで、大人と話が出来て良かった。
- ・自分でも気づかないことが出てきて、これからどういうふうな所に改善して、町を良くするかを考えさせられる部分があった。
- ・こういう機会があったらまた参加したい。
- ・2025年の後期高齢者問題に向けて、健康・医療・介護が連携して地域包括ヘルスケアという形で、かなり詰めて具体的に進めていかないと時間がないし、大変なことになる。

- ・講演を聞いて、わが町の病院の明るい道が少し見えた気がする。具体的にどうしていくかというのは、これからみんなで共通認識を持ってやっていかなければならない。
- ・講演を聞いて見方が変わりました。これからの活動に明るいものを感じられた。この会議はいろいろな立場の人が話し合うということや、高校生が入る意義も大きいと感じられました。連携連携と言われているが、こういう場でいろいろな立場の人が話し合うことが連携につながって、皆さんがそれぞれの仲間に情報を発信していくっていう構造が出来ていたら素晴らしいなと思いました。
- ・住民の方から盛り上げて、参加してやっていくという小児科医を呼んだという話はすごく良い例で、すごくイメージがわいて、参加してよかったと思う。
- ・これらはすべて病院にあてはまる話だと思う。一つの個体だけではだめで、町民や行政がきちんとやらなければいけない。情報を密にとって、職員が働きやすいと思える職場でなければだめだと思う。

【伊関教授による講評】

各グループの発表が終わった後、伊関教授からは、これだけ病院に関して前向きな話合いが出来たのは、この町始まって以来の事だと思う。病院の方たちは一生懸命頑張っている。批判することで良くなるのであれば、いくらでも批判していいが、そうではないので、一緒になって作っていき、みんな元気になって、足りないところを補い合う事が大事というお話しや、各グループに対するアドバイスなどをいただいた。

また、グループ討議の中から出た病院に対する応援団の話には、そのような団体があると病院の現場は助かると思うとのご意見や、人材不足の解消は、なかなか難しい問題だが薬剤師に奨学金や医師の調整手当のような手当を出すようなことも一つの方法ではないかというご提案をいただいた。

そして、何よりも人を育てること、研修を充実させることがスタッフを増やすことにつながり、病院の診療報酬加算にもつながる。そのことで医療の質も上がって、患者さんはそういう質の高い医療の病院を受診したいという話になるので、そこを充実させていくことが必要である。接遇の面では、一部だけを見て全てをダメというのではなく、良くなったという意見もあるので、その変化をとらえてぜひ応援していただきたい。

医師にとって住みやすい地域や働きやすい病院、医療システムを作るためには、足りないものを補いあって、皆でより良い病院・地域にしていくことが必要。皆で本音や弱音を言い合える関係で、良い地域を作っていく事がすごく大事など、今後町民や議会、職員が総合病院を守るために行動するうえで、とても参考になるお話をいただいた。

他にも、八雲総合病院は函館から苫小牧までの中ではナンバーワンの病院であり、患者もいろいろな地域からやってくるので、大学の医局から医師を派遣される可能性も高い、もっと魅力を高める必要があることや、他の病院や地域をみて情報を取り入れながら病院を変えていく必要があるという点にも触れられた。

全国から医師や薬剤師等の研修も受け入れていて、非常に高い研修力を誇っているようなので、それを町民や院内の職員に向けても積極的にアピールし、若い医療関係者が集まってくる地域にしていく事が、この地域の医療を残すこと、ひいてはこの地域を存続させることにつながるというお話もされ、数年たって、またこういう医療について前向きに話す機会があるといいと思う。

また、議会で運営されたことも非常に画期的であり、いろいろな地域の課題について、会派を超えて議論し合うというような場も設けていただくと、住民と共に歩める議会として、ものすごく可能性がある。今回の成功を次の成功、八雲町全体の成功につなげていただきたいという事をお話しいただいた。

5. 議員の感想

○三澤議員

みんなの頑張り、頼もしかったです。

さて、「成功！！」と浮かれるのは、打ち上げまでで終わり！

新たな課題、新たな期待が満載です！手始めは看護とか事務系、あるいは医師などと定期的に話し合いができる様にしてみるとか…。

何ができる、何をしよう…。

グループの卓を囲んだそれぞれが、どう「変わる」のか！？

どんな行動ができるのか…期待されてるうちに動かなければ！

これからの八雲町議会、楽しみです。

○宮本議員

この度、伊関教授に同行させていただき、八雲総合病院・熊石国保病院視察、医療セミナー等に参加して、病院経営のあり方について、大変勉強になりました。医師不足・診療加算等、細かなところまで話してもらい、今後の経営方針の参考になると思います。

○大久保議員

まず、文厚常任委員会が中心となり障害を乗り越え開催したセミナーに、これだけ多くの人が集まってくれたことは、委員の一人として素直に嬉しく思います。

しかし予想できたこととはいえ、余裕をもってお願いしているにもかかわらず病院経営のトップである院長や事務長、主役であるはずの医師が一人も参加してくれなかったことに若干の怒りと、責任感や危機意識の欠如を感じます。

第一部講演では、身構えて参加していた病院職員の防御姿勢を解かせ、責める気満々の住民意識をかわし、「地域のひと全てが地域の医療を守っていく意識」を植え付けるのに十分な内容であった。

第二部G討議では、「このままではいけないと認識している」「住民からの目をとて

も意識している」など、赤字問題や不祥事が続く現状で病院職員の置かれている立場からの辛い心情も聞かれた。また、現場職員目から挙げられた「弱点、強み」の中にはすぐにでも改善・強化できることもあり、逆にそれが八雲総合病院の現状（現場と経営者の隔絶、会議の空疎化）をはっきりと現していた。

しかし、本セミナー開催の意図を理解してくれた病院職員からは、明るく前向きな発言も多くあり、総合病院の未来への希望が少しではあるが芽生えたかのような雰囲気になり、このような場の定例化を求める声が出たことは今回のセミナーとしての成果である。

「病院問題に限らず、町の問題に対し議会が中心となり住民・行政がこれだけ率直に話し合う機会は全国的にも先進的な事例であり敬意を表す」と伊関教授からの高い評価を受けたことは、八雲町議会として議会改革の成果であり、誇れることだと思います。

今回の成功は講師の力量によるところが大きいです。その講師の選定、開催への情熱、熱意の伝播は間違いなく岡島委員長の成果であり、文厚委員として八雲町議会議員として感謝いたします。

○黒島議員

伊関教授による地域医療セミナー

- ①現在地域医療におきている問題
- ②医師不足問題（全国で医師不足が深刻な社会問題になっている）
- ③医師不足の原因
- ④少ない医療数

伊関教授によるセミナーに参加し、まさに八雲総合病院がこの4点に当てはまる問題点と受け止めました。

本当に八雲総合病院を残すためには、この4点を真剣に考えなければならない課題と思います。

行政と医療者と住民が一つになって真剣に地域医療として、また八雲総合病院は地域医療ばかりでなく渡島・檜山の災害拠点病院としてしっかり考え、問題点を解決していかなければと思いました。

グループ討議についても「地域の病院を残すためには」というテーマでしたが、設置者である行政、病院、町民により、残すための問題点について色々な話が出ました。もう少し一般の参加者が多ければ、より多くの声が聞けたのではと思います。

八雲総合病院を存続させるためには、この経営問題の赤字をどう解消していくか、設置者である町長また経営管理者である病院長、議会並びに町民のご協力を頂いて解決していかなければならないと思いました。

○横田議員

各地の病院再生の話は、危機を乗り越えた結果であり、八雲は皆がまだ危機だと思っていないのが問題かな。

グループ内の話でも部分的な問題は出ても、解決策は出てこない。目標も定かでない。目指す場所が無ければ進めないのではないだろうか。

何が出来て、何が出来ないのか。なぜできないのか。

グループ内で出ていたチーム医療がまだ途上との話は、上意下達であることだった。

以前、何度か病院の質問をしたことが未だに活かされていない。上層部は自身の身の安泰だけしか考えていないのか、一部の職員から聞いた話のままである。理念や何やらはただのお飾りでしかない。

このまま進むと、身売りの話になってしまう。町民のための病院であることの必要性を再認識し、病院再生が必要だ。

○佐藤議員

2015年（平成27年）10月18日、はびあ八雲で医療セミナーが行われた。今金やせたな、松前、長万部からも議会、医療関係者等が参加して下さった。

講師の伊関友伸教授の語る医師抑制策に至った政治的背景と2004年の臨床研修医制度が始まってから今日までの医師不足が解消しない経緯など、大きな流れの中の解説がわかりやすく良かった。（自分がそれを再現できるほど記憶にとどめていないのが悔しいが…。）

いくつかの自治体病院が苦しい状況から立ち直っていく事例には励まされた。住民運動が鍵になることを教えてくれた。

グループ討議には、午前中の伊関教授の講演も聴いていた高校生が積極的に参加してくれ、それが討議の活性化につながったと思う。たいへん有難かった。あらゆる層が参加して話し合える場が持てたら、まちも病院も変わると思う。誰がその流れをつくっていくか。自分自身にはとてもできないと思うが、議会がそれを担えたら素敵だと思う。

伊関教授は講評で、「総合病院は今はいかにアヒルの子かもしれないが、白鳥になれる病院だ。10年、20年もつ体力はある。」とおっしゃっていた。この言葉を信じて、皆から信頼される病院になることを願う。

○牧野議員

地域医療再生について講演を聴いて、全国で医師不足が深刻な問題となっているのはどうしてか。また、八雲総合病院の医師不足は、地域にとって必要な医療が提供できないだけでなく、医師がいないことで病院の収益にも深刻な影響をもたらし、病院を存続の危機に追い込むことになりかねないので、医師が勤務しようと思える地域と病院をどのように作るかなどの課題解決のために、全国の具体的な事例に基づく説明

をいただいた。特に「人任せでは地域医療は崩壊する」、「地域医療再生は民主主義の再生につながる」等、今回のセミナーでは、とても分かりやすく伝えていただき、医師不足に悩む地域として参考になりました。

今後も八雲町が抱える様々な問題など、町民と医療関係者や行政と一体になって、地域医療の再生に取り組むという動きが必要だと思いました。

○赤井議員

議会が企画・運営して行う初めてのセミナー。町民は集まってくれるかな？医療関係者は？グループ討議の進め方は？などなど、打ち合わせをしたにもかかわらず、前日まで不安でした。まして、その日は八雲町の文化祭・芸能発表と重なっていて、誘った方達のほとんどが、出演者&運営者。空席が目立ったらどうしよう！という思いでした。

前日に、伊関教授をお迎えし、一緒に病院で説明を受け、夜は懇親会。真剣に病院の事を考えて下さっている教授の心に触れ、なぜか「明日は大丈夫！」と安心してしまいました。

そして当日。受付でしたが、前日の安心感が形となり、参加者がどんどんいらして下さり、テーブルとイスを追加するほど。自分が声をかけた方達も顔を見せてくれて、ほっと一安心。

講演は、自治体病院が置かれている現状と課題、今後の方向性など、素人の私にもわかりやすくお話して下さり、とても勉強になりました。入室するときと退室するときの参加者のみなさんの表情やアンケートからも、『来て良かった！』という思いが感じられ、伊関教授の力を実感すると共に、改めて感謝の心でいっぱいになりました。

午後のグループ討議には、2人の高校生も参加することが決まり、「地域の病院を残すために」というテーマでしたが、高校生や、午前中の講演を聞いていなかった方は話しにくいかな？と思い、「なぜ、病院を残すか。それは町民が安心して暮らせるため。では、安心して暮らすには、病院はもちろん、他にどんなことが必要で、そのために自分は何をすべきか」というスタートにしました。もちろん、伊関教授にも相談してのことです。1時間という時間は、本当にあつという間で、私の進行のまずさもあり、自分達の率直な思いを話すだけで終わってしまい、そのために自分は何をすべきかの確認ができなかったことが、大変心残りです。でも、参加者同士の思いを通し、少しでもつながりができ、この次はこの先を話し合おう、という声が上がってきたことが何よりも嬉しかったです。

今回のセミナーはスタートだと思うので、ここで話されたことを今後どのように活かして行くのかをしっかりと総括し、次の取り組みにつなげていかなければ、何も残らないと思います。私自身も、もう一度伊関教授の講演の内容を振り返り、今回参加できなかった方たちにも伝えると共に、今回参加して下さった皆さんと、次の取り組みに向け準備していけたらと思っております。

スタッフの皆さま、本当にお疲れ様でした！そして、更に前進しましょう。

○千葉議員

全国の地域医療や自治体病院運営に見識ある伊関教授に来町して頂き、講演やグループ討議を通してアドバイスを受けたことは、2次医療圏の拠点病院である八雲総合病院と地域医療を担っている熊石国保病院の将来にむけてどうあるべきかという羅針盤を示していただいたと思います。

本年3月に総務省から新しい公立病院改革ガイドラインが示されています。最大のポイントは、普通交付税の算定根拠を許可病床数から稼働病床数に変更することです。熊石国保病院を運営する上で大きく影響を与えることとなります。医師不足・看護師不足で大幅に病床利用率を上げることができなければ、財政的な影響は計り知れません。具体的な財政措置がどのようになるのか注視していかなければなりません。一方ガイドラインでは、財務一辺倒ではなく、医療の質向上を目指す目標設定や人材投資など、医療機能の強化に収益増加を示しております。DPC調整係数Ⅰ・Ⅱの向上と診療報酬の加算取得が一つのキーポイントになります。一人あたりの報酬単価が低下している八雲総合病院の状態を考えれば、具体的な目標を設定して加算取得対策をしなければなりません。

そんなことなどを強く享受したセミナーでした。

○岡島議員

本セミナーが開催できましたことに対し、議員・事務局の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

昨年、自身が伊関教授のセミナーに参加し感銘を受けたので、地域医療の現状と課題を是非皆さんで共有し、課題解決の糸口にしたいと考えました。構想より開催までの1年間にいろいろなことがあり、それらを乗り越えて開催できたことは、感慨深いものがあります。

病院職員にも積極的に参加していただき、また二次医療圏の議員さんも参加くださり、町民・行政・議会が一つの問題について考え、議論する場となり、自分の不安は、参加して下さった皆さんと、お手伝いいただいたみなさんが解消してくれました。残念ながら、一般町民の参加が少ない結果となり大いに反省をしている。

参加下さった皆様の意見にもあるように、今回のセミナーを次につなげることが、今、議会に求められている。伊関教授からは、議会改革の先進を行っているとの、お言葉をいただき、議会改革の取り組みの必要性も改めて認識した。

議会基本条例制定、議会報告会、一般会議など取り組んできたが、まだ道半ばの状態であり、次なる一手が打てず、改革の踊り場にいる状況に見えていたのではないかと。

今回のセミナーで感じた、皆さんのやる気を次につなげることができるよう取り組み、町民にも広く理解を求め、共に改革を進めることが急務であり、求められている。

最後に、当町までお越しいただき二日間にわたり親身になって対応いただいた、伊関友伸教授には、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

伊関教授に胸を張って、改革の成果報告ができるよう、次の一手はこれかな？

6. 今後に向けて

講演会終了時に、アンケートを実施し、集計結果は次のとおりである。これをみると、セミナーの内容、満足度で高い支持を受け、今後の参加についても90%以上の参加を望む声があった。

また、アンケートの自由記載欄における主な意見等は次のとおりである。

- ・後半の話がとてもよかったです。医療従事者→患者というような関係ではなく、医⇄患というお互いにサポートし合えるような関係が大切だと改めて感じました。制度や法律などで押さえつけられればよいと今まで思っていたけど、考え方が変わりました。ありがとうございました。

- ・地域医療を行っていくには、住民の協力が必要不可欠だと思った。

- ・医療従事者です。今まで漠然と日々目の前の患者様に対応していましたが、現状と今後の医療現場の予測を具体的に学ばせて頂けたことで、自分の職種だけでなく、他職種との協業・チーム医療の中で、今から高齢化社会への準備・対策をしていかななくてはいけないという事がよく分かりました。

日頃の業務遂行の中で、少し将来への危機感を持ち、先を見据えた行動をしていきたいと思います。

本日は貴重なご講演、ありがとうございました。

- ・わかりやすい話で良いセミナーだった。ただ、かかりつけ医を持つのが重要と言っても、八雲の場合それが数少なく、難しく感じた。
- ・医療系を目指す高校生にとっても良い機会でしたので、またこのような場があることを期待します。
- ・看護師を志望する生徒に、受験で小論文が課せられますが、テーマに「地域医療」を取り上げる学校が多く、その指導に当たる際、こちらも知らない事ばかりでしたので、本日のご講演は大変ためになりました。

また、高校生も本日聴講させていただきましたが、使命感を持って進路活動するきっかけとなったと思います。ありがとうございました。

- ・医療従事者が大変だというのは理解できるが、それを選択したのは医師本人ではないか？

地域住民の協力・意識改革が大事なのも分かるが、医師養成のために莫大な投資がある現実も踏まえ、医師の意識改革も必要と考えます。

どちらも理解、協力しなければならない状況と考えます。

- ・私は病院職員ですが、町民の方々と生の声を聴けるめったにない機会という事で参加させていただきました。このような取り組みを今後も継続して、地域の医療が守られ

るようにしてほしいです。

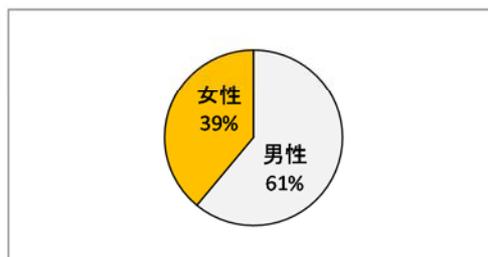
- 今日のセミナーをきっかけとして、病院職員が努力することは勿論、町民の皆さんの意識に働きかける様、議会のご尽力を希望します。
- 不勉強なため夕張の件を全く知らずに参加してしまった。知っていたら印象が変わって、もっとお話を聞くことが出来たのでは？と思う。
- セミナー後の地域医療について、どうなったのかを評価してほしい。
- 議員の皆さんが主体となり、開催することに感謝申し上げます。本当に八雲町の事を考えていると思いました。
- 私は3週間ほどせたなの病院で研修している医師です。
医師の臨床研修の充実も必要ですが、看護師さんのアイデンティティークライシスも深刻のように感じています。
教育できる医師が居なければ、看護師さんの学習能力の向上を図ることは出来ない。
- 病院の職員なのですが、病院の悪口、職員だけが悪い様に評価を受けているように思っていたのですが、議会・議員の方々が努力されていることを知れて、大変うれしく思いました。ありがとうございました。
こと地域で八雲総合病院をなくさないよう希望・切望します。
- 患者様によりそう＝遠慮だったのかな。共にご指導は「えらそうに」の患者の声に変化し難しさを感じますが、自分の住む町、大切にしていきたい 住民を巻き込み！そのために何が出来るかを考えますが、一人一人と真正面から会話をもってゆこうと思います。ありがとうございました。
- 自分の地域にも伊関先生に来ていただきたいと思いました。
まずは自分の地域、自分の考え方の変革もしなければいけないですね。今回お声をかけていただき、ありがとうございました。
- I T技術の導入について。不良病院の存続問題について。医師・看護師等のプロ意識の向上について。
- 病院を残していくためには医師の質が大切だと思います。
病院職員の対応（特に受付、事務職員等）を良くしてほしい。
住民に信頼される病院になるよう願っています。
- 石破大臣の話しのスピードが聞き方に大変心地いいと、順天堂の小林先生が。BSで見ました。

「地域医療を考えるセミナー」アンケート集計結果（全体）

□日 程 平成27年10月18日（日）
 □場 所 はびあ八雲コミセンホール
 □出席者数 110人
 □配付者数 76人
 □提出者数 67人（回収率 88%）

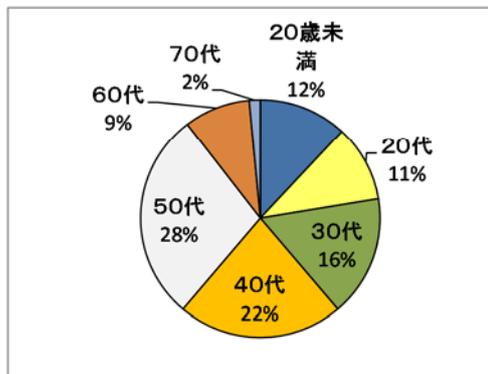
Q1 性別について

	人数	割合
① 男性	41人	61%
② 女性	26人	39%
無回答	人	%
回答者数	67人	



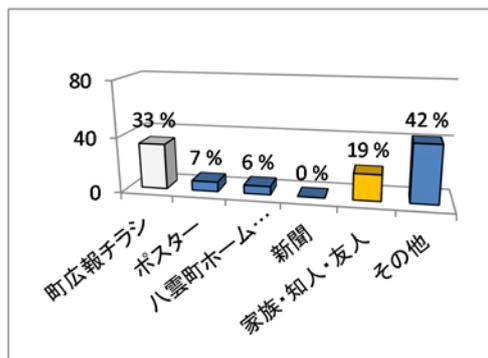
Q2 年齢について

	人数	割合
① 20歳未満	8人	12%
② 20代	7人	11%
③ 30代	11人	16%
④ 40代	15人	22%
⑤ 50代	19人	28%
⑥ 60代	6人	9%
⑦ 70代	1人	2%
⑧ 80歳以上	人	%
無回答	人	%
回答者数	67人	



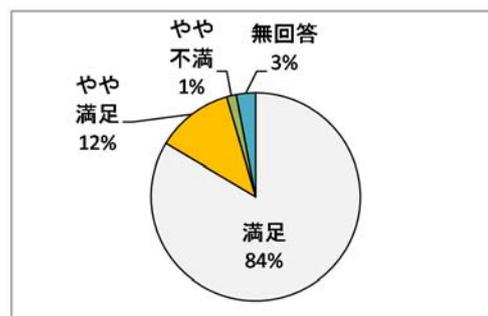
Q3 セミナーをどのようにして知りましたか 【複数回答】

	人数	割合
① 町広報チラシ	22人	33%
② ポスター	5人	7%
③ 八雲町ホームページ	4人	6%
④ 新聞	人	%
⑤ 家族・知人・友人	13人	19%
⑥ その他	28人	42%
無回答	2人	3%
回答者数	67人	



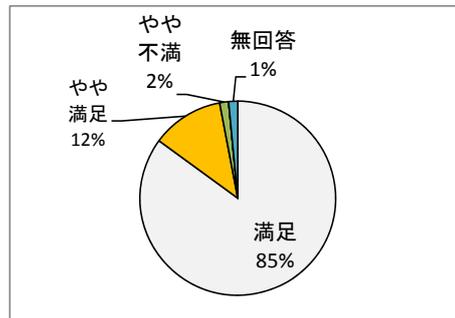
Q4 今回のセミナーについて、どのくらい満足していますか

	人数	割合
① 満足	56人	84%
② やや満足	8人	12%
③ やや不満	1人	1%
④ 不満	人	%
無回答	2人	3%
回答者数	67人	



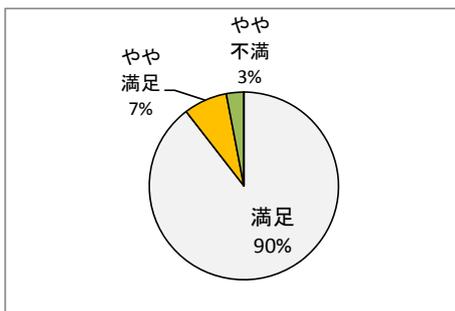
Q 6 セミナーのテーマはどうでしたか

	人数	割合
① 満足	57人	85%
② やや満足	8人	12%
③ やや不満	1人	2%
④ 不満	人	%
無回答	1人	1%
回答者数	67人	



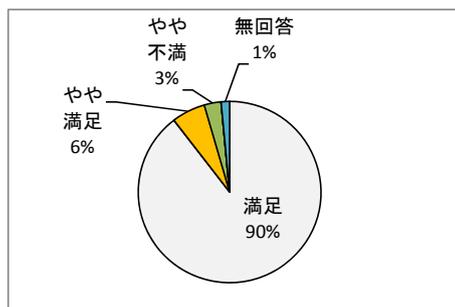
Q 7 セミナーの構成・内容はどうでしたか

	人数	割合
① 満足	60人	90%
② やや満足	5人	7%
③ やや不満	2人	3%
④ 不満	人	%
無回答	人	%
回答者数	67人	



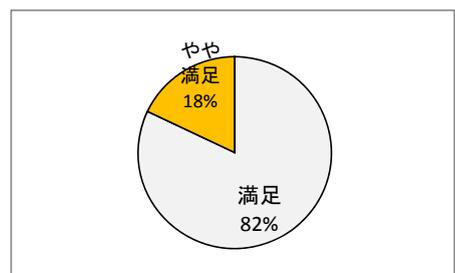
Q 8 セミナーの進行はどうでしたか

	人数	割合
① 満足	60人	90%
② やや満足	4人	6%
③ やや不満	2人	3%
④ 不満	人	%
無回答	1人	1%
回答者数	67人	



Q 9 スタッフ（議員）の対応はどうでしたか

	人数	割合
① 満足	55人	82%
② やや満足	12人	18%
③ やや不満	人	%
④ 不満	人	%
無回答	人	%
回答者数	67人	



Q 10 今後同様のセミナーがあった場合、参加したいと思いますか

	人数	割合
① 参加したい	60人	90%
② やや参加したい	6人	9%
③ あまり参加したくない	1人	1%
④ 参加したくない	人	%
無回答	人	%
回答者数	67人	

